

# 2009 年 3 月号 目次

## 【トピックス】

- 平成 20 年度食品の食中毒菌汚染実態調査 (その 2) . . . . . 1
- アレルギー物質を含む食品の検査結果 (その 2) . . . . . 2
- 魚介類中の食品汚染物検査 . . . . . 4
- シックハウス対策検査 ~木質の内装用建材から放散する化学物質~ . . . . . 5

## 【感染症発生動向調査】

- 感染症発生動向調査委員会報告 2 月 . . . . . 6
- 感染症発生動向調査における病原体検査 2 月 . . . . . 10

## 【検査結果】

- 由来別病原菌検出状況 2 月 . . . . . 11

## 【情報提供】

- 衛生研究所 WEB ページ情報 (20 年度 2 月分) . . . . . 12

## 平成 20 年度食品の食中毒菌汚染実態調査 (その 2)

食中毒菌汚染実態調査は平成 10 年から厚生省(現厚生労働省)が行っている事業です。

この調査は汚染食品の排除等、食中毒発生の未然防止対策を図るため、流通食品の汚染実態を把握することを目的として行われています。

本年度は、野菜類と肉類(生肉やローストビーフ等)について大腸菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌(EHEC) O157 および O26、カンピロバクター・ジェジュニ/コリ(牛レバー、鶏肉のみ)の調査を行いました。野菜類については、検査情報 9 月号で結果を報告しました。今回は、平成 20 年 8 月～平成 21 年 1 月に肉類(生肉やローストビーフ等)83 検体について調査を行いましたので、その結果を報告します。

大腸菌は馬肉および特定加熱食肉製品(ローストビーフ等)以外の肉類 49 検体から検出されました。サルモネラ属菌は鶏肉 1 検体から検出され(血清型 Infantis)、EHEC O157 および O26 は 83 検体全てで検出されませんでした。カンピロバクター・ジェジュニは牛レバー 2 検体と鶏肉 1 検体から検出されました。このうち、生食用表示がある牛肉 1 検体と牛レバー 1 検体(表 \*1)は、生食用食肉の衛生基準不適(基準は、糞便系大腸菌群及びサルモネラ属菌が陰性)でした。

表 食中毒菌汚染実態調査結果 (肉類;衛生研究所検査分)

検体の種類	検査検体数	検査結果(陽性数)				
		大腸菌	サルモネラ 属菌	EHEC O157	EHEC O26	カンピロバクター・ ジェジュニ/コリ
牛肉	33	20 <sup>*1</sup>	0	0	0	NT
牛レバー	14	6 <sup>*1</sup>	0	0	0	2 <sup>*2</sup>
豚肉	15	13	0	0	0	NT
牛豚挽肉	3	2	0	0	0	NT
鶏肉	7	7	1	0	0	1 <sup>*2</sup>
馬肉	3	0	0	0	0	NT
山羊肉	1	1	0	0	0	NT
特定加熱食肉製品 (ローストビーフ等)	7	0	0	0	0	NT
計	83	49	1	0	0	3

NT:未検査

\*1 衛生基準不適

\*2 全てカンピロバクター・ジェジュニ

【 細菌担当 】

## アレルギー物質を含む食品の検査結果(その2)

平成13年4月、食物アレルギーを持つ人の健康危害を未然に防止する観点から、アレルギー物質(特定原材料)を含む食品に表示が義務付けられました。現在、特定原材料として卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かきの7品目が指定されています。

平成21年2月に、健康福祉局食品専門監視班が通信販売で買上げた洋生菓子、焼菓子類(食物アレルギーがある人のために製造されたものや、特定原材料の表示がないもの)について、卵と小麦の検査を行いました。その検査結果を報告します。なお、平成20年6月及び10月に行ったアレルギー物質の検査結果については、平成21年1月号の検査情報月報に掲載されています。

また、平成20年10月に学校給食で、卵アレルギーを持つ児童がちくわ(表示では卵不使用)を食べた結果アレルギー症状が出たという事件がありました。この件についても併せて報告します。

### 1 卵の検査

洋生菓子、焼菓子類20検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、いずれも陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果 (スクリーニング試験)

食品	検体数	陽性数
洋生菓子	11	0
焼菓子	9	0
合計	20	0

### 2 小麦の検査

洋生菓子、焼菓子類16検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング試験の結果、洋生菓子(ココナッツケーキ)1検体については陽性(10ppm以上)でしたが、それ以外はすべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

スクリーニング試験で陽性となったココナッツケーキ1検体についてPCR法による確認試験を行ったところ、結果は陰性でした。ココナッツケーキの原材料表示を確認した結果、小麦のスクリーニング試験に用いたELISAキットで高い偽陽性の値を示すことが知られる食物(ライ麦、大麦、オーツ麦、あわ、ひえなど)は表示されていませんでした。現在食品専門監視班が、製造所を管轄する自治体を通して調査を行っています。

表2 小麦の検査結果

食品	スクリーニング試験		確認試験	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
生菓子	8	1	1	0
焼菓子	8	0		
合計	16	1	1	0

### 3 学校給食のちくわの検査

平成20年10月に、学校給食でちくわを食べた卵アレルギーを持つ複数の児童がアレルギー様症状を訴える事件が発生し、当所にちくわの検査が依頼されました。

ELISA法によるスクリーニング試験およびウエスタンブロット法による確認試験を行った結果、問題のちくわに卵が含まれていることを確認しました。

製造所を所管する自治体の調査の結果、このちくわは卵を含まないレシピで製造される予定だったにもかかわらず、「不使用徹底」の連絡が社内に行き渡らず、卵白入りで製造されてしまったものと判明しました。

食品アレルギーは、時にアナフィラキシーショックなどの重篤な事態を引き起こすことがあります。今回のような事件が起きないようにするためには、食品製造業関係者にアレルギー物質を含む食品についての知識や取り扱いについてアピールしていく必要があるものと思われます。

【 食品添加物担当 】

## 魚介類中の食品汚染物検査

### 【PCB検査】

平成20年度に中央卸売市場で収去した流通魚13種19検体について、PCBの検査を行いました。その結果、5検体からPCBを検出しました(表)。しかし、検出した検体はいずれも暫定的規制値(遠洋沖合魚介類0.5ppm、内海内湾魚介類3ppm)以下でした。

表 PCBの検査結果

単位 : ppm

食品の種類		検体数	検出件数	結果	暫定的規制値
遠洋沖合魚介類 (可食部)	アカシタピラム	1	0	不検出	0.5
	カツオ	1	0	不検出	
	マイワシ	1	1	0.08	
	マサバ	3	2	0.02, 0.10	
内海内湾魚介類 (可食部)	ウスメバル	1	0	不検出	3
	カタクチイワシ	1	0	不検出	
	カンパチ	1	1	0.01	
	キンメダイ	1	0	不検出	
	サワラ	2	0	不検出	
	ブリ	2	1	0.01	
	マアジ	3	0	不検出	
	マダイ	2	0	不検出	
計		19	5	-	-

(検出限界 : 0.01ppm)

### ( 暫定的規制値について )

本来、規制値を定める時には、長期毒性研究の結果から、人体の一日摂取許容量(ADI)を算出し、食品ごとの規制値を定めるのが一般的です。しかし、PCBの長期毒性研究は、その研究の完成がみられていない状況にあります。一方、PCBの食品汚染と、これを取りまく社会情勢は放置できない現状にあります。このため、食品衛生調査会では内外の研究成果を基礎として暫定的に人体の一日摂取許容量5 $\mu$ g/kg/dayを算出し、これに食品のPCB汚染の実態を勘案して当面の基準として暫定的規制値が決められました。

この暫定的規制値は、十分に安全性を考慮してあるので、この暫定的規制値が守られ、かつ食生活指導等の保健指導対策を進められれば、汚染地域においてもPCBによる危害の発生は防止できるものと考えられています。

### 【メチル水銀検査】

平成20年度に南部市場検査所で行った魚類の総水銀検査で、暫定的規制値(0.4ppm)を超えた黒ムツ切身について、メチル水銀の検査を行いました。その結果、メチル水銀が1.26ppm(水銀換算濃度)検出されました。魚介類の水銀の暫定的規制値は総水銀としては0.4ppm、メチル水銀は0.3ppm(水銀換算濃度)です。

一般に黒ムツのような深海性魚介類は水銀の値が高いと言われています。

【 微量汚染物担当 】

# シックハウス対策検査

## ～木質の内装用建材から放散する化学物質～

近年、室内空気中に放散した化学物質で居住者等の体調不良を引き起こす「シックハウス症候群」に関する問題が多く報告されています。このシックハウス症候群の発生を予防するには、建材や家具等から室内空気中へ放散される化学物質を低減化していく必要があります。

そこで今回は、建築物の内装用に使用されている木質建材を試験品として、厚生労働省による化学物質の室内濃度指針値が設定されている成分等について検査を行いました。

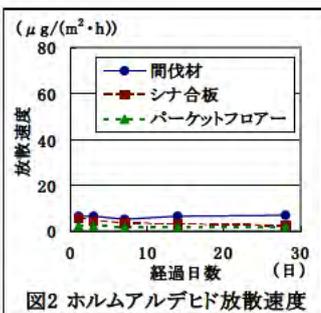
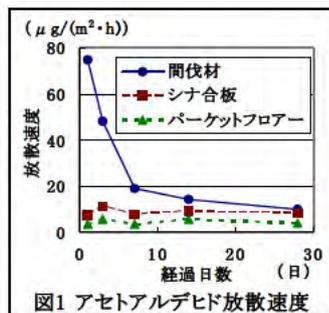
### 1 試験品

内装用木質建材 3種

間伐材(ヒノキ)、シナ合板(ベニヤ材)、パーケットフローア(床材: 板材の裏面にクッション材を貼付した構造のもの)

### 2 検査項目

アルデヒド類(アセトアルデヒド、ホルムアルデヒド)およびVOC類(トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレン、テトラデカン等)



### 3 検査方法

試験品3種に関し、小形チャンバー法(JIS A 1901)による化学物質の放散量に関する調査を行いました。まず、試験品をチャンバー内に設置し、チャンバー内の換気条件を一定(温度:28℃、湿度:50%、換気回数<sup>\*1</sup>:0.5回/h)にしました。次に、試験品設置から1、3、7、14、28日経過後に、チャンバー内の空気をそれぞれ採取し、その中に含まれる化学物質量の測定を行いました。

### 4 検査結果および考察

厚生労働省による室内濃度指針値が定められている物質のうち、アセトアルデヒドおよびホルムアルデヒドに関してはいずれの建材からも放散が認められました。この結果を図1および図2に示しました。アセトアルデヒドについては3種の建材の中で間伐材からの放散が特に大きく、測定開始から28日目においても緩やかに減衰しながらも放散が継続していました。ホルムアルデヒドについても3種の建材の中で間伐材からの放散が最も大きく、F☆☆☆☆<sup>\*2</sup>に相当する値を示しました。建築物の内装に間伐材を使用した場合、これらの物質の室内空気中濃度が実際にどのようになるかは、間伐材の使用量や換気量等の他の要因があるため、本調査結果だけでは予測することが出来ません。しかし、放散が長期にわたると推察されるため、建築物竣工から使用開始までの間、換気量および期間を十分に確保する必要があると考えられました。また、状況に応じて建築物使用開始以降も同様の措置を取ることが望ましいと思われました。

一方、厚労省による指針値が定められている物質のうち、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレン、テトラデカンについては、いずれの試験品からも放散が認められませんでした。また、指針値が定められていない化学物質のうち、放散が認められた主な物質はα-ピネン、リモネンおよびメチルイソブチルケトン等でした。

【 環境衛生担当 】



\*1 換気回数: 単位時間に室内空気が置換される量を、室容積当たりの数値で表したものです。つまり、0.5回/hというのは、2時間で室内の空気が1回全て入れ替わる状態を表しています。

\*2 F☆☆☆☆: 建築材料はホルムアルデヒドの放散量に応じてF☆☆☆☆(放散小)からF☆(放散大)の4段階にランク分けがされています。また、建築基準法により、内装用建材については、このランクごとに室内に使用できる面積が制限されています。ただし、間伐材はムクの木材であるため、この規制の対象外となっています。

# 感染症発生動向調査委員会報告 2月

## 今月のトピックス

- インフルエンザは減少傾向に転じています。
- インフルエンザ迅速診断用検査キットによる型別の集計ではB型が優勢になりました。
- MRワクチン ・ ・ 期及び横浜市緊急接種対象者には3月中の接種をお勧めください。

### 【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点：88か所、内科定点：57か所、眼科定点：18か所、性感染症定点：26か所、基幹(病院)定点：3か所の計192か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

### 平成21年 週 - 月日対照表

第4週	1月19～25日
第5週	1月26～2月1日
第6週	2月 2～ 8日
第7週	2月 9～15日
第8週	2月16～22日

平成21年1月19日から2月22日まで(平成21年第4週から第8週まで。ただし、性感染症については平成21年1月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

## 全数把握の対象

### < 麻しん >

2008年から感染症法における5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.gov/jp/disease/measles/index.html>)

2009年2月は26日現在で5例の報告があり、うち3例は予防接種を1回受けていました。

ひと月で100例以上の報告があった2008年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、麻しんにかかっていない方は予防接種を2回受けることが大切です。

2012年の麻しん排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>

**横浜市の緊急対策は2009年3月31日で終了します。**

1歳～高校3年生に相当する年齢の未接種・未り患者は、この機会に接種していただくことが重要です。横浜市の詳細については、「横浜市における麻しん患者届出状況」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/measles/measles.html> をご覧ください。

《日本は、2008年～2012年の5年間で、麻しん排除を目指します》

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

1歳および就学前1年間の、麻しん風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底

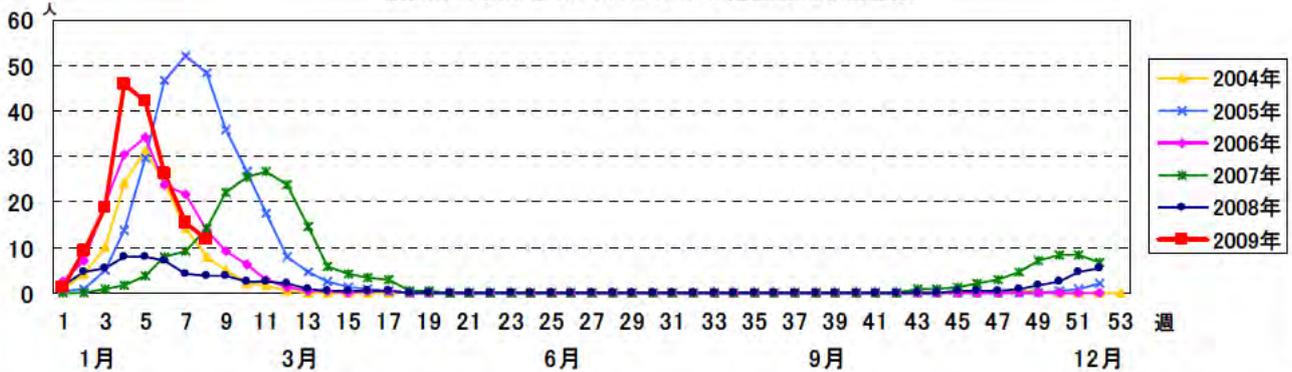
5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施

## 定点把握の対象

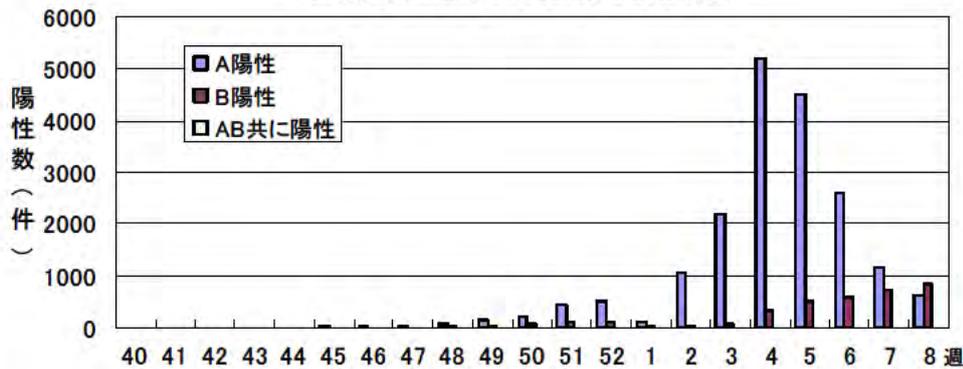
### <インフルエンザ>

今シーズンは、過去5年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008年第49週に流行の目安となる「定点あたり報告数1.0」を超え第4週に45.98と警報レベルの流行となりましたが、その後減少し、第8週は定点あたり報告数11.54となっています。行政区別では、都筑区(24.29)、瀬谷区(22.86)、泉区(20.00)、磯子区(15.00)、緑区(13.00)、保土ヶ谷区(12.13)の順で多く報告されており、警報水準を超えている区はありません。神奈川県(横浜、川崎を除く)は11.88、川崎市は10.04、全国は12.05でした。

横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数



横浜市内の患者定点医療機関における迅速診断用検査キットによる型別の判定



迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第8週にA型610件、B型853件、A・B共に陽性7件の報告があり、B型が優勢になりつつあります。また、2008年第46週以降、病原体定点と集団かぜの検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は併せて118件あり、

その内訳はAH1(ソ連型)62件(52.5%)、AH3(香港型)33件(28.0%)、B型23件(19.5%)となっています。

学校等における集団かぜは2009年2月21日までに施設閉鎖11施設(11施設)、学年閉鎖13施設(14学年)、学級閉鎖92施設(122学級)の報告がありました。

AH1(ソ連型)分離株は遺伝子解析を行った51株すべてからオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。また、AH3(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った19件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。

横浜市インフルエンザ流行情報もご覧ください(薬剤耐性検査の情報等より詳細な情報があります)。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza\\_rinji\\_index2008.html](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/influenza_rinji_index2008.html)

### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

例年、春季を中心とした流行の後に夏季には大きく低下し、また冬季の流行に向かって増加します。昨年は、第34週に最低値となった後、細かな増減はあるものの増加傾向が続き、第49週には定点あたり2.52となりました。年末年始に少し減少しましたが、その後やや増加し2009年第8週は1.47でした。行政区別では港北区(5.00)が高く、次いで緑区(4.50)、保土ヶ谷区(3.40)、港南区(2.40)となっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.28、川崎市は3.39、全国は2.15でした。

< 感染性胃腸炎 >

昨年は、第43週から増加の兆しが見られ、第51週の定点あたり報告数は18.51と、今シーズンで最も高い値となりました。その後減少し、2009年第8週は4.88となりましたが、ノロウイルスによる集団感染の報告もありますので注意が必要です。行政区別では港北区(8.29)、戸塚区(7.67)、緑区(7.50)、西区(7.33)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は5.56、川崎市は6.67、全国は7.04と、いずれも横浜市より高い値です。

< 水痘 >

例年、年末年始にかけて発生が増加しますが、2009年第2週の定点あたり報告数は3.67と、過去5年間で最も高い値となりました。その後減少し、第8週は1.95と、現在は例年並みの水準で推移しています。これから春にかけて例年流行しますので、注意が必要です。行政区別では泉区(5.75)、瀬谷区(4.50)、都筑区(3.80)、緑区(3.50)が高くなっています。神奈川県(横浜、川崎を除く)は1.51、川崎市は1.36、全国は1.68でした。

< 性感染症 >

性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

1月は、2008年12月に比べて全体としては横ばいですが、尖圭コンジローマが昨年の同時期と比べて多くなっています。19歳以下の若年層については、男性は性器クラミジア感染症で1例、性器ヘルペスウイルス感染症で1例、淋菌感染症で1例、女性は性器クラミジア感染症で2例、淋菌感染症で1例と、多くはありませんが、女性の性器クラミジア感染症に10～14歳の感染者もあり、低年齢化が懸念されます。

2月18日に発表された厚生労働省エイズ動向委員会報告によりますと、2008年の年間報告の速報値は、国内で新たに報告されたHIV感染者数は1113人、エイズ発症者数は432人とともに過去最高で、HIV感染者は6年連続、エイズ発症者は3年連続の増加でした。

(エイズ動向委員会報告 [http://api-net.jfap.or.jp/mhw/survey/mhw\\_survey.htm](http://api-net.jfap.or.jp/mhw/survey/mhw_survey.htm))

#### 【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:5か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

#### 衛生研究所から

##### <ウイルス検査>

2009年2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点56件(鼻咽頭ぬぐい液50件、糞便6件)、内科定点14件(鼻咽頭ぬぐい液)、眼科定点1件(結膜ぬぐい液)、基幹定点5件(鼻汁4件、髄液1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎40人、胃腸炎6人、発熱のみ4人、発疹4人、関節痛1人、頭痛1人、内科定点は気道炎6人、関節痛6人、発熱のみ1人、頭痛1人、眼科定点は流行性角結膜炎1人、基幹定点はインフルエンザ3人、脳炎1人でした。

3月10日現在、小児科定点では、気道炎患者5人からインフルエンザウイルスAH1型(以下AH1型)、関節痛患者1人からインフルエンザウイルスAH3型(以下AH3型)、気道炎患者11人、発熱のみの患者3人からインフルエンザウイルスB型(以下B型)、気道炎患者1人からアデノウイルス2型が分離されています。また、内科定点では、気道炎患者1人、関節痛患者2人からAH1型、気道炎患者2人からAH3型、関節痛患者1人、頭痛患者1人からB型、基幹定点では、インフルエンザ患者3人のうち1人からAH1型、1人(2検体)からAH3型が分離されています。

これ以外にPCR検査では、小児科定点の気道炎患者8人、発熱のみの患者1人からAH1型、気道炎患者1人からAH3型、発疹患者2人からコクサッキーウイルスA9型、発疹患者1人からヒトパルボウイルスB19型の遺伝子が検出されています。また、B型が分離された気道炎患者11人のうち1人からAH1型の遺伝子が検出されました。内科定点では、気道炎患者1人、関節痛患者1人からAH1型、気道炎患者1人、関節痛患者1人からAH3型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

##### <細菌検査>

2月の感染性胃腸炎関係の受付は8件で検出されませんでした。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は8件でA群溶血性レンサ球菌が6件検出されました。

【 感染症・疫学情報課 検査研究課 ウイルス担当・細菌担当 】

## 感染症発生動向調査における病原体検査 2月

感染性胃腸炎 2009年2月

検査年月	2月		2009年1~2月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	0	8	0	14

菌種名

サルモネラ				
腸管病原性大腸菌				
毒素原性大腸菌				
組織侵入性大腸菌				
腸管出血性大腸菌				
腸管凝集性大腸菌				
黄色ブドウ球菌				
カンピロバクター				
不検出		8		14

呼吸器感染症等 2009年2月

検査年月	2月		2009年1~2月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	8	0	16	0

菌種名

A群溶血性レンサ球菌	T1		1
	T2		1
	T3	1	1
	T4		1
	T12	3	4
	T13		
	T25		
	T28	2	2
	T B3264		
	T 型別不能		1
B群溶血性レンサ球菌			
G群溶血性レンサ球菌			
黄色ブドウ球菌			
髄膜炎菌			
インフルエンザ菌			
肺炎球菌			
不検出		2	5

T (T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 細菌担当 】

# 由来別病原菌検出状況 2月

2009年2月

検体の種類	分離菌株数					
	ヒト		環境		食品	
	糞便、尿、咽頭ぬぐい液、 喀痰等 菌株による依頼を含む		河川水、河川底泥等		食品、食品容器等のふきとり、 飲料水等	
	2月	2009年1-2月	2月	2009年1-2月	2月	2009年1-2月
コレラ O - 1						
O - 1以外						
赤痢菌 A						
B						
C						
D						
その他		1				
チフス菌						
パラチフスA菌						
その他のサルモネラ						
O4群						
O7群	1	1				
O8群						
O9群						
O3,10群						
その他						
腸管病原性大腸菌						
毒素原性大腸菌						
組織侵入性大腸菌						
腸管出血性大腸菌	2	4				
腸管凝集性大腸菌						
腸炎ビブリオ						
黄色ブドウ球菌	8 <sup>*1</sup>	8 <sup>*1</sup>				
カンピロバクター						
ウェルシュ菌						
A群溶血性レンサ球菌	6	11				
B群溶血性レンサ球菌						
レジオネラ						
セレウス菌						
その他	2 <sup>*2</sup>	2 <sup>*2</sup>				
取り扱い件数	82				29	

\*1 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

\*2 *Ralstonia pickettii*(髄液由来)

【細菌担当】

# 衛生研究所WEBページ情報

(アクセス件数・順位 20年度1月分、電子メールによる問い合わせ・追加・更新記事 20年度2月分)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

2008年4月、市民にわかりやすくかつ迅速な情報提供を目指して、リニューアルを行いました。

今回は、2009年1月のアクセス件数、アクセス順位及び2009年2月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (2009年1月)

2009年1月の総アクセス数は、155,015件でした。主な内訳は、感染症58.0%、食品衛生17.4%、保健情報8.1%、検査情報月報3.2%、生活環境衛生1.4%、薬事2.1%でした。

### (2) アクセス順位 (2009年1月)

1月のアクセス順位(表1)は、第1位が「マイコプラズマ肺炎について」、2位が「横浜市インフルエンザ等流行情報」、3位が「インフルエンザについて」でした。

国立感染症情報センターによると、2008年末からマイコプラズマ肺炎の報告数の増加がみられ、2009年第5週(1月26～2月1日)まで、定点当たりの報告数が増加していましたが、第6週(2月2～8日)以降減少しています。

インフルエンザの流行期に入り、インフルエンザ関係の記事のアクセス数が増加しています。

4位に「ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について」が入りました。2008年12月19日から、日本でもヒブワクチン(Hibワクチン)が発売開始となりました。細菌性髄膜炎を予防するワクチンです。

アメリカはもちろん、アジア・アフリカを含む世界各国で導入され、WHOの推奨により120か国以上で公費負担による接種が行われています。

日本ではまだ任意予防接種の範疇で、新規発売ということもあり、しばらくは供給が少ないようです。

表1 2009年1月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	7,715
2	横浜市インフルエンザ等流行情報	3,135
3	インフルエンザについて	3,111
4	ヘモフィルス-インフルエンザb型菌(Hib)感染症について	3,047
5	百日咳について	2,988
6	感染症発生状況	2,649
7	感染症発生状況 2009年第3週	2,424
8	英字略語集(ABC順)	2,326
9	電子パンフレット(レジオネラ症を防止するために)	2,125
10	臨時情報	2,029

データ提供: 行政運営調整局IT活用推進課

(3) 電子メールによる問い合わせ (2009年2月)

2009年2月にホームページのお問合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、2件でした(表2)。

表2 2009年2月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
着色料について	1	衛生研究所
<i>Ralstonia pickettii</i> について	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2009年2月)

2009年2月に追加・更新した主な記事は、8件でした(表3)。

表3 2009年2月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
2月2日	妊娠と喫煙について	更新
2月10日	感染症に気をつけよう(2月号)	追加
2月19日	食品添加物データシート:ポリソルベート	更新
2月20日	英字略語集(ABC順)	更新
2月20日	エンテロウイルスについて	更新
2月20日	健康な妊娠・出産のために注意したい感染症について	更新
2月25日	横浜市インフルエンザ等流行情報 8号	追加
2月26日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	更新

【 感染症・疫学情報課 】